青森田中学園報

# こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
幼保連携型認定こども園
中央文化保育園
幼保連携型認定こども園
浦町保育園

特集：学生の活躍 ～グローバル化をめざして～

vol.101

Kobushi no Hana
Oct, 2019

目　次

特集：学生の活躍
～グローバル化をめざして～ 2

青森中央学院大学 4
・HAKODATEアカデミックリンク
・県主催の学生発プロジェクトに参画
・まちなかキャンパスミニ公開講座
・久留米大学学生との共同販売
・地域探究アクト
・台南でミニ青森フェアの開催
・援農体験ツアー
・新時代で変化する社会諸相とビジネス境界の展望
・COC+ 活動から
・全日本大学ボウリング選手権大会優勝！
・SDGsの取り組みから～援農サークル発足！～
・国際交流センターより
・飛翔式実行委員を担当して
・台湾の短期留学を通して
・平成30年度「むつ市中学生夢をはぐくむ体験入学事業」
・「看護研究Ⅱ」発表会
・「探究の基礎」発表会
・保健師教育課程「実習学びの報告会」

青森中央短期大学 10
・海外留学プログラム
・学生食育プロジェクト「おむすび」
・幼児保育学科ミュージカル【アウガ公演】
・樹の実プロジェクト
・おめめとおてて展
・ライブで楽しむ中短 JAZZ 講座
・就職活動体験記
・幼稚園・保育園等合同説明会開催
・高齢者へのおやつ提供
・専攻科新たな取り組み～介護 ICT授業～
・先生の自分史
・研究室の訪ねて
・読んで欲しいこの１冊
・卒業生も活躍しています

附属第一・第二・第三幼稚園
浦町保育園　中央文化保育園 18
・行事アルバム
・先生達活躍しています
・読み聞かせたい一冊の絵本

青森中央文化専門学校
青森中央経理専門学校 16
・リミテッドショップ「eha」
・青森中央経理専門学校公開講座
・研修旅行
・経理発信情報
・ファッション通信
・おススメ図書
・卒業生ピックアップ

新教職員紹介 18

学園共通 21
・選書ツアー
・青森中央文化専門学校特別公開授業「meets the Fashion」
・公開講座案内



# 特集 学生の活躍 ～グローバル化をめざして～

## 国際産直プロジェクト

青森中央学院大学では学生たちがタイ産マハチャノ・マンゴーを学生が輸入からマンゴーの仕分け･販売などを行う「国際産直プロジェクト」を実施しています。9年目となる今年も、学生40名が総務･品質管理･在庫管理･広報などを担当し、販売を行いました。

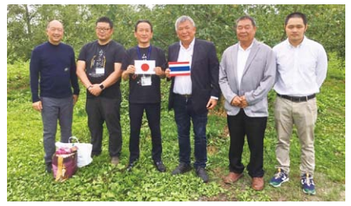
輸入されたマンゴーは直接販売のほか、加工製品の開発として、「道の駅なみおか」協力の元、マンゴージェラートの販売や青森中央短期大学食物栄養学科「樹の実プロジェクト」によるマンゴーパウンドケーキの制作など、新たな取り組みにも挑戦しています。

そして、新たな取り組みとしてこの度、「黒石リンゴ輸出事業」に挑戦することとなりました。

大きな社会問題となりつつある農業の後継者不足に悩まされるのは、青森県黒石市でも例外ではなく、農業を含む経営を学ぶという観点で、学生の実践の場としてのりんご農園運営の提案が黒石市よりもたらされました。

海外輸出が好調な青森県産りんごですが、台湾やベトナムに比べタイ王国では輸出量が少ないことからも、青森県の主要産業である第一次産業活性化への寄与と、本学を起点とした青森とタイの関係強化を目的に、運営の開始が決定されました。

りんご農園運営に関しては、春から収穫までの期間は近隣農家様の助けを借りて薬剤散布などの専門的なメンテナンスを行っていただき、「つるまわし」「葉とり」「収穫」などの作業を学生が担う予定です。また、本学ではタイ側との折衝や調整のほか、「黒石りんご」という資源のタイにおける活用方法や可能性を、様々な面で模索していきたいと考えております。



## 青森中央経理専門学校観光コンシェルジュコース
### タイ･泰日工業大学の学生との交流

青森中央経理専門学校では、毎年、医療事務コースが青森中央学院大学と連携授業を実施している。今年度は、観光コンシェルジュコースが初めての試みとして、青森中央学院大学へサマーキャンプで来日しているタイの泰日工業大学の学生と5/16～6/6の間で計６日間、青森県内の観光名所を周遊しながら交流を深めた。

初日となる5/16には、授業で習得した英語力を駆使し、緊張しながらも自己紹介をおこなった。5/18には、泰日工業大学の学生と一緒にグループに分かれて青森駅周辺の街歩き、5/23には三内丸山遺跡を案内し、英語で説明することにもチャレンジした。5/19には、弘前市内で藍染め体験を一緒に行い、弘前公園では、地元の方々に「青森の魅力」をインタビューする課題にグループで取組んだ。最後に行われた活動報告会では、両校の学生が感想を発表し、楽しい時間を振り返り、名残を惜しんでいた。

## 留学生限定　就職支援セミナー開催

本学園では企業の採用活動が解禁される毎年３月１日に、「学内企業就職セミナー」を開催している。参加者は、企業からの熱意ある説明に刺激を受けるだけではなく、学生同士情報交換をしながら、就職に向けての意識を高めている。

また、青森中央学院大学には多くの外国人留学生が在籍していることから、この度、留学生だけを対象とした学内企業就職セミナーを初開催した。

初の試みとなった今年度は、青森県内10社のほか、東京など青森県外からも７社の企業が集まり、各ブースで熱意のこもった説明が繰り広げられた。参加した日本での就職を希望する100名以上の留学生も真剣な表情で説明に聞き入り、めざす分野への理解を深めていた。

青森中央学院大学

# 青森中央学院大学

## HAKODATEアカデミックリンク

今回、私は**HAKODATEアカデミックリンクのポスターセッション**に参加しました。熱気に包まれた会場で、皆さんが発表を真剣に聞いてくださったのは嬉しかったのですが、準備不足で内容を正確に伝えることができず、自分の不甲斐なさにガッカリしました。同時に、次回は同じ過ちを繰り返さないと決意しました。

一方、他の参加者の発表は、同じ大学生かと疑いたくなるほど高度なもので、社会との関わりを考慮した研究も多く感心しました。例えば、ARについて発表していた学生は、構想の実現を通じて地域活性化に貢献しようとしていました。凄いと思いながらも悔しく、自分もいつかそのような研究ができるようになろうと思いました。反省点は様々ありましたが、新たな出発点となる経験ができたと感じています。俺たちの戦いはこれからだ！！

（経営法学部：
齋藤 賢伍）

## 県主催の学生発プロジェクトに参画

「地域密着アクト」の受講学生が青森県主催の「学生発未来を変える挑戦プロジェクト」に参画しました。2018年12月21日、ねぶたの家ワ・ラッサで開催されたフォーラムで活動内容を発表しました。学生は３年生の山本心太朗君、伊藤皓平君、古舘大河君、佐藤逸良君、高橋空也君の５名です。

テーマは本県の最重要課題である人口減少の克服に向けた**「大学生が卒業後に地域で働き続け、地域とつながるための要因分析」**です。県内の5つの大学にご協力いただいて学生の皆さんにインタビュー調査を実施しました。その結果、親や友人、趣味を通じた地域の方たちとの関わりによって、大学生の地域への愛着が強まり、地域につながる可能性を析出しました。また、発表団体の中から選出されて「青森ブランドフォーラム」でプレゼンテーションをしました。

（経営法学部
准教授：中川 衛）

## まちなかキャンパスミニ公開講座

青森中央学院大学では、青森市新町に位置するサテライトキャンパスを会場とした公開講座も開催している。今回は、11月30日に開催された**「トランプ政権と法」**の様子をご紹介する。

この講座では、様々な論議を呼んでいる米国のトランプ政権について、移民政策を中心に、その憲法的・文化的背景について解説した。同国の憲法は、内外の脅威に対処するために、軍の総指揮権を大統領に与えている。トランプ氏は、不法移民をそのような脅威の一種ととらえ、自らの権限で入国を制限しようとしている。しかし、二大政党制や連邦国家、民主主義の変質といった諸要因の下で、彼は政策を思うように実行できず、同国の政治は混迷を深めている。当日は、日米の政治文化の違いを踏まえつつ、両国が共有する社会的課題の解決について、参加者の間で活発な議論が展開された。

「まちなかキャンパスミニ公開講座」は2019年度も開催予定である。是非足を運んでいただければ幸いである。

## 久留米大学学生との共同販売

久留米大学とは連携協定に基づいた単位互換の授業を実施しており、９月上旬に本学の経営法学部３年生の８名が久留米大学の授業を受講した。

学生達は、地域の産業や文化などについて学び、大川市長と市議会議長に表敬訪問した。また、じゃらんnetで九州１位の評価を受けている**「道の駅 うきは」**（福岡県うきは市）と県境を越えた**「道の駅 水辺の郷おおやま」**（大分県日田市）で青森産品と久留米大学学生のオリジナル商品の共同販売を実施した。

各道の駅では青森の跳人衣装を久留米大学の学生が着込み、本学の学生とともにアップルパイや青森ラーメン、ほたて商品などを販売した。九州から青森に来たことがある人は僅かであり、普段は買うことができない産品に手を伸ばしていた。また、地元新聞の２紙にこの活動を取り上げて頂いた。

## 地域探究アクト

2018年度の地域探究アクトＩＡでは、６名の学生が東北町と連携し、「第18回ふるさと自慢わがまちCM大賞」に取り組んだ。学生は５月から東北町の特産品やイベントを調べ、実際に訪問することで、東北町の「魅力」を話し合ってきた。その結果、７月に開催される「わかさぎマラソン」と東北町の郷土料理である「しじみ汁」を組み合わせたCMを作成することとなった。

CM制作ではカット割りや動画の編集に苦労したが、何より東北町の魅力を30秒という短いストーリーで伝えなければならない点に最も苦労した。多くの苦労があったが、東北町商工観光課の方々や甲地小学校の皆様にご協力いただき、東北町の魅力が伝わるCMを作成することができた。

CM作成を通じ、協働する楽しみを実感できただけでなく、東北町の魅力を再発見することができた。

## 援農体験ツアー

上北地域県民局が主催する「援農モニターツアー」が本学の学生を対象に実施された。2018年度の援農モニターツアーは、三沢市や東北町において３回開催され、学生はニンニクや長芋、ゴボウの収穫作業、出荷作業を体験した。とくに長芋の収穫作業にともなった栽培用パイプの撤去作業では、固くしまった農地からパイプを抜いた後、５本程度をまとめて運ばなければならず、12月の寒空にも関わらず、汗ばむほどの重労働であった。

農作業を体験しただけでなく、宿泊先であった原燃テクノロジーセンターでは、地元の農産物を使用した料理体験が実施され、食を通して農業への理解を深めた。また、受け入れ農家との交流会も開催され、農業のやりがいや苦労などを直接聞くことができるよい機会となった。

## 台南でミニ青森フェアの開催

平成30年度の短期海外アクトＩの海外研修は、８月27日～９月５日の日程（９泊10日）で実施された。参加者は経営法学部の２年生６名で、台北、高雄、台南などの各都市を訪れ、台南市でミニ青森フェア（２日間）を行なった。

フェアでは、台南駅に近い台南文化創意園区のイベントホールで、青森民芸品の制作体験やねぶたの跳人体験、青森ラーメン＆リンゴジュースの食味調査、青森・北東北の観光紹介、書道のデモンストレーションなどを実施した。跳人体験では子供から大人まで、青森から持参した跳人衣装に着替え、ユーチューブのねぶた囃子に乗って元気に跳ねた。地元メディアの記者も実際に体験し、もっと大きな会場で開催すべきとの助言も頂いた。来場者には３年連続で青森フェアに参加して頂いたリピータもおり、青森を楽しんで頂いた。

## 新時代で変化する社会諸相とビジネス境界の展望

本学の開学20周年を記念し、同地域マネジメント研究所より、本学教員による論考集が発刊された（以下、敬称略）。第１部は、社会諸相にみる諸課題として、国会で取りざたされている憲法改正議論（太田航平）、また日大アメフト部をはじめとするスポーツ界の慣行にみる組織の危機管理課題（大泉常長）、近年、急速な増加で対策が求められる自閉症スペクトラム障害（加藤澄）、そして日本語教育の現況からグローバル社会での日本国の相対的地位を概観する（田中真寿美）。第２部は、本研究所の研究の力点を置くコミュニティ・ビジネスより、農業経営のケース報告（庄子元）、産業創生としての観光活動（岩船彰）、アートツーリズム（内山清）、サイクルツイスタースリム（森田学）、そして組織の経営戦略（塩谷未知）について論じている。

発刊にあたっては、青森学術文化振興財団及び青森中央学院大学より助成を受けた。深く感謝の意を表します。

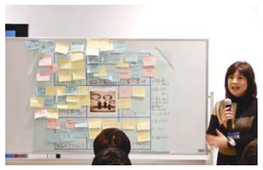
# COC＋活動から

## 「青森で働くこと、本気と本音の交流会」

平成30年12月１日、青森商工会議所１階の「AOMORI　STARTUP CENTER」（通称あおスタ）において、県内４大学の学生30名と企業経営者10名が参加した「青森で働くこと、本気と本音の交流会」を開催しました。

交流会では、「地域に生きるということ」と題した青森商工会議所西副会頭の講演、および高山地域連携センター長による県内企業の採用動向についての報告のあと、参加者が６グループに分かれ、TALK＆CAFE形式によるワークショップを行いました。

ワークショップでは、「あおもりで、素敵に働くには？」をテーマにして、学生と経営者がお互い活発な意見を交換し合い、参加者が「青森で働くこと」について多様な視点から考えることができる貴重な機会となりました。



## 「学生による青森県の企業訪問 ～『SCENE』への記事掲載」

青森県の企業を大学生が訪問し、その取材記事を掲載する青森大好きマガジン「SCENE」は平成28年８月に創刊号を発行して以来、これまでに第９号まで発行していますが、平成30年度は本学学生が「SCENE」の発行に積極的に参加しました。

７月に本学学生２名が弘前大学の学生４名と㈱東奥日報社を訪問し、９月には本学学生２名と弘前大学の学生３名が㈱青森テレビをそれぞれ訪問、取材しました。

また１月には、本学学生３名が単独で青森商工会議所を訪問し、若井会頭に直撃取材をすることができました。

参加した学生たちは、ふだんは経験することができない企業トップや幹部の人たちへのヒアリングや、貴重な話やアドバイスをじかに聞くことができ、大変有意義な体験ができたと話していました。

㈱東奥日報社

青森商工会議所

## 「ドイツ式健康ウォーキング実地調査」

ドイツ式健康ウォーキングと健康との関わりについて実地に調査するため、同ウォーキングの先進地である秋田県三種町を平成30年９月16日・17日の２日間、「クアウォーキングを支えようサークル」の学生らが訪問しました。

三種町は日本海に臨む人口約１万６千人の町で、３カ所６コースの認定ウォーキングコースのほか、運動教室を開催するなど町民の健康づくりを推進しており、学生は熱心に調査を行いました。

なお、「クアウォーキングを支えようサークル」の活動については、昨年の10月20日に本学で開催された日本ヒューマンケア科学学会学術集会で、また11月の青森中央学院大学開学20周年記念シンポジウムの際に取組事例を報告しています。

秋田県三種町の
実地調査

青森中央学院大学
開学20周年記念シンポジウム





# 全日本大学ボウリング選手権大会優勝！

去る11月23日～25日、本学ボウリング部は、川崎グランドボウルで開催された全日本大学ボウリング選手権大会で２年ぶり２度目の優勝を果たしました。ご支援頂いた大学関係の皆様、並びにご指導下さったコーチに感謝申し上げます。今回の大会では、岡山商科大学、早稲田大学及び本学が熾烈な争いの中、最終ゲームの10フレームまで勝敗が分からない状況でしたが、僅か６ピン差で優勝を勝ち取る事が出来ました。優勝出来た最大の要因は「チーム力」だと思います。キャプテンを中心に互いに声を掛け合い、最後まで集中力を切らさず投球できた事が勝因だと思います。また、スペア練習や合宿を重ねて個々の力を上げることが出来たのも勝因の一つだと思います。来年度も先輩達が築き上げたチーム力を受け継ぎ、二連覇に向けて練習を重ねていきたいと思います。

（青森中央学院大学ボウリング部部長　西山 響）

# SDGsの取り組みから ～援農サークル発足！～

2018年７月、上北地域県民局が主催する「援農モニターツアー」に参加した学生が中心となり、継続的に青森県の農業をサポートすることを目的とする「援農サークルen」が設立された。

援農サークルenでは、JAゆうき青森と連携し、学生の受け入れ希望農家の農作業を有償でサポートしており、ニンニクの植え付けや長芋の収穫といった作業を実施してきた。また、農作業をサポートするだけではなく、都市においてどのように農業が消費されているのかを学ぶため、東京都と神奈川県での視察を実施した。この視察では、全国から農家が集まるファーマーズマーケットやJAS有機農産物のみを取り扱うスーパーマーケットを視察し、農産物に様々な価値が付加され、消費されている様子を学ぶことができた。

# 国際交流センターより“グローバル化促進”

## 【海外の機関と協定締結】

### 〈北京第二外国語大学〉

11月26日、語学・経営・法律など幅広い分野の教育と研究が行われている北京第二外国語大学と学術交流協定を締結した。

今後は、学生間交流や大学院間交流など様々なプログラムを進めていく予定である。

## 【海外の交流団の受け入れ】

### 〈ランシット大学インターナショナルカレッジ〉

10月４～６日、青森中央学院大学第1期生（タイからの留学生）が教員としてタイのランシット大学インターナショナルカレッジ（RIC）のスタディープログラム生を引率し、本学を訪問した。学生交流や文化交流が行われ、今後も交流を即していくこととなった。

### 〈台北市内11高校の校長等視察団〉

10月10日、台北市内にある11の高校の校長先生等による青森視察団を受け入れ、青森中央学院大学や青森県内の高校との相互交流の促進について意見交換を行った。

### 〈ハノイ国家大学外国語大学・附属高校〉

12月５日、日本語教育も行われているハノイ国家大学外国語大学とその附属高校である外国語専門高校と協定を締結した。

今後は、学生間交流や本学への推薦入学など様々なプログラムが進められる予定である。

### 〈外務省JENESYSプログラム〉

10月15日、外務省「21世紀東アジア青少年大交流計画」（JENESYSプログラム）で、フードバリューチェン交流の為訪日したベトナムの若手行政官を受け入れ、グリーン・ツーリズム誘致活動や県内の農産業について意見交流を行った。

### 〈アセアン10か国アグリツーリズム研修団〉

10月16日、国際機関日本アセアンセンターのアグリツーリズム研修プログラムで来青した研修団を受け入れ、青森県の概要説明とアグリツーリズムの取組状況を説明するとともに相互交流を行った。

# 飛翔式実行委員を担当して

**看護学部４期生　齊藤 偲織**

昨年10月、看護学部４期生の飛翔式が行われました。飛翔式とは、本格的に専門科目領域を学び始める２年次の半ばを節目とし、より一層学修に対して主体的に取り組めるよう学生一人ひとりが将来の看護職像を明確にし、志を新たにすることを目的とした看護学部1期生からの伝統行事です。飛翔式実行委員は、式の運営や関連行事の企画、ボード類の制作等を学生が主体となって行います。そのため自発的な意見交換や行動、効率良く進行していくための細かな連携が必要不可欠でした。行き詰まったこともありましたが、先生方のアドバイスやクラスメイトの協力もあり、飛翔式・関連行事ともに無事成功させることができました。

私は委員として活動し、主体性と協調性を高める良い経験ができたと感じています。この経験を忘れず、今後の学生生活に活かしていきたいと思います。

# 台湾の短期留学を通して

**看護学部３期生　阿部 花奈美**

2018年８月台湾の南台科技大学へ短期留学をした。なぜ台湾に短期留学をしたかというと、1年生のころに履修した中国語の授業がきっかけで中国語が好きになり、もっと勉強する機会が欲しいと思ったからである。今回の留学で中国語を学ぶことができて目的を達成したので良かったが、それよりも台湾の大学生と交流したことが一番よい経験になったと思う。一緒に食事をしたり出かけたり、文化体験などのプログラムに参加していくなかで、台湾の文化や中国語・台湾語などたくさんのことを教えてもらった。私も日本のことや青森のことを伝えた。短い期間であったが仲良くなれて嬉しかった。そして台湾の大学生と次会う時はもっと中国語・日本語を上達して再会しよう！と約束をした。これからも勉強をし続けたいと思う。

# 平成30年度「むつ市中学生夢はぐくむ体験入学事業」

今回は、むつ市内の８つの中学校から、23名の中学生をお迎えし、大学での学習を体験していただきました。

花田学長による特別公演は、「『13歳のハローワーク』を読んで～医療を支える多様な職業～」をテーマとし、中学生が将来を考えることの意義や、医療を支える様々な職業が紹介されました。

模擬講義では、「命と向き合う-助産の魅力-」をテーマに、母親になることや助産師の役割について学習し、演習では、妊婦体験や新生児人形を用いた抱っこ・授乳・沐浴に挑戦していただきました。生徒さんたちは、妊婦の大変さや育児の難しさを感じながら、自分も愛情深く大切に育ててもらっていることを実感し、両親や家族への感謝の気持ちを持つことができたようです。ワークショップでは、留学生と交流し、他国の文化について理解を深めておりました。

（別科助産専攻助教：丸山 夏弥）

# 「看護研究Ⅱ」発表会

**看護学部２期生　砂田 佳菜**

私の看護研究のテーマは、「緩和ケアにおける音楽療法に関する文献検討」でした。テーマを決めたものの、音楽療法そのものの知識や、音楽療法と看護の関連性についての情報収集から始めたため、気が付けば3年生の３月になっていました。

実習、就活、国試対策の中で看護研究を進めるのは難しく、どうしてもこのテーマでやりたいという強い意志がなければ、進めることはできなかったと思います。思うように意見がまとまらず、そのまま自分の意見をぶつけても一戸先生はいつも受け止めてくださり、最終的には納得のいく看護研究になりました。後半では、直接指導に加えて、お忙しい合間を縫って、メールでの質問にも応えていただきました。一戸ゼミとこのメンバーで、発表まで頑張れたことが、一番の看護研究の思い出です。

# 「探究の基礎」発表会

**看護学部５期生　石岡ゼミ**

１月23日に授業の締めくくりとしての発表会を終え、達成感を感じています。

最初はグループワークに慣れず、なかなかみんなの前で意見を言うことができませんでした。しかし、先生から「KJ法」という、みんなで意見を出し合ってまとめていく方法を教えてもらったことをきっかけに、メンバーの発言が増え、全員の意見を取り入れて発表内容をまとめることができました。発表会の当日も朝からみんなで集まって練習して、満足のいく発表ができました。また、発表会で他のグループの発表を聞くことで、発表の方法を学んだり、発表されたそれぞれの内容に興味が湧いたりして、視野が広がりました。

今後は課題レポートや看護研究があります。この授業で学習したレポートの書き方や自分の興味を広げ、頑張っていこうと思います。

# 保健師教育課程「実習学びの報告会」

**保健師教育課程3期生　栗林 正弥**

個人・家族・集団・組織の支援実習は、保健師が地域で行う保健師活動を本学の近隣地域に住む人々を対象に実践し、その実際を学ぶ科目です。この科目では、実際の地域に出向き、地域の特色やそこに暮らす人々の様子を感じる事ができました。地域に暮らす方々のおかげで、沢山の学びがありました。そして、対象となった地域に暮らす方々をお招きし、『学びの報告会』を開催しました。グループ毎に発表の準備を行い、企画運営も学生が中心となり行いました。開催にあたっての準備には、各学生がそれぞれの役割を確認しながら多くの時間を費やしました。そのため、当日は各学生が自分の仕事をしっかりと遂行でき、大成功の報告会となりました。学びの成果をお世話になった地域の方々に報告し、コメントなどを頂けたことは、学びと同時に自分達の自信にもつながりました。

青森中央短期大学

# 青森中央短期大学

## 海外留学プログラム

青森中央短期大学では海外留学プログラムとして、アジア圏を中心に各種留学プログラムを用意しています。昨年度もこのプログラムを利用し、３名の学生が海外へ飛び立ち、新たな経験を積んできました。それぞれのプログラムの様子を紹介します。

**タイ王国　レジーナ・シェリー・カレッジ**

参加した２名は、入学時に取り組んだ「入学前サポートプログラム」でタイ文化に触れたことがきっかけとなり、今回の留学に繋がりました。

プログラムでは、日本語授業のサポートを行いましたが、生徒たちの日本語を学びたいという強い意欲に触れ、やりがいを感じていました。また日本との食文化の違いに驚いたとともに、自身がめざす「栄養士像」について改めて見つめ直す機会となったようです。

日本語で教える事の難しさや、タイでの生活で会話に苦労する場面もあったようですが、将来に向けての新たな目標や、さらなる留学に対する夢を抱く、またとない機会となったようです。

**韓国・釜山外国語大学校**

昨年度３名が参加した、釜山外国語大学校留学プログラムへは、以前より韓国の食や文化に興味があったという食物栄養学科の学生１名も参加しました。

留学生活を通して、自身の語学力の上達や、精神面での成長を実感するなど、非常に実りの多い留学になったようです。また、実際に現地で食文化を体感し、自身の学びに活かしたいという意欲ものぞかせていました。

今後も機会があれば今度は長期間での留学を体験したいなど､大きな夢も抱くことができたようです。

## 学生食育プロジェクト「おむすび」

平成29年度から始まった学生食育プロジェクト「おむすび」、平成30年度は２件の活動をおこないましたが、今回は保育園で行った活動をご紹介します。活動テーマは「お箸のマナー」についてです。新メンバーも加入し、みんなで協力して大きな教材や台本を作り、何度も練習をました。当日はお箸の紙芝居の読み聞かせのあと､「刺し箸」「迷い箸」「涙箸」「舐り箸」など寸劇仕立てで間違ったお箸の使い方を紹介しました。最後はみんなで本学の**オリジナル食育ソング**である**「あさごはんブルース」**を踊りました。園児の皆さんはとても楽しんでくれました。今後も学生が主体となった活動を行っていきたいと思っています。

## 幼児保育学科ミュージカル[アウガ公演]

**グリム童話より『七羽のカラス～ココロ コトバ アイ～』**

世界に１つだけの私たちのミュージカルには毎年400名の方々が拍手を送って下さいます。平成30年度のミュージカルは、グリム童話の中でもあまり知られていない「七羽のカラス」というお話を選んでリメイク。学生達は監督たちと力を合わせて発表を目指して作品を創り、分野が融合したパフォーマンスの世界を体験しています。費やした時間は総合的な芸術教育の学びとなって、今度は子ども達の表現の世界を広げる力となっていくでしょう。

保育者には奥深い可能性と喜びがありますね。皆さん感動をありがとう！

## 樹の実プロジェクト

キャンパス内に自生する植物や果樹を基に、学生が商品の企画・試作・製造・マーケティングを行い、PDCAサイクルを体得することを目的にプロジェクトが発足しました。

これまで学園祭にてカシスとマンゴーのパウンドケーキを完売するなど好評を得ました。２月にはバレンタイン企画として、高校生を対象に学園内で収穫した果樹を使用したチョコレート菓子を作るイベントを実施しました。高校生に学生がサポートすることで伝えることの大切さを学ぶことができたと思います。

これからもノウハウを学生に伝える環境を構築し、同時に商品ブランドを形成することで、食育活動を通して青森中央短期大学をアピールし学園全体を活性化できるような活動を行っていきます。

## おめめとおてて展

県内の保育士養成３校（青森中央短期大学、青森明の星短期大学、八戸学院大学短期大学部）による造形作品とワークショップの展示「おめめとおてて展～おめめちゃんとおててくんのごんぼホリデー～」を、ポータルミュージアムはっち、青森県立美術館コミュニティーホールで実施しました。

青森中央短期大学からは附属5園の子ども達と幼児保育学科が一緒に制作した作品展「すてきなす研究所」を発表しました。また､会期中行われたワークショップの一つでは、幼児保育学科1年生の学生が主体となり造形あそびを実施し、子ども達と楽しみ、子ども達の表現を引き出すにはどうしたらいいか、実践の中で学びました。

## ライブで楽しむ中短JAZZ講座

平成30年度は新企画としてまちなかキャンパス講座として全３回シリーズからなる「ライブで楽しむ中短JAZZ講座」を新町のスタートアップセンターと新町キューブで開催しました。

演奏とジャズについてのお話は幼児保育学科教員でジャズピアニストとしても活躍の木村貴子先生。１回目はピアノソロ、２回目はベースを加えたデュオ、３回目はさらにドラムが加わったトリオでの演奏とお話の楽しい講座に参加者の皆さんは大満足の拍手を送ってくださいました。今年度は９月26日、11月１日に開催いたします。お楽しみに！

## 就職活動体験記

**食物栄養学科　上田 紫穂 さん**

私の就職活動は、2018年2月に東京で行われたインターンシップから始まりました。参加の動機は、第一に企業理念に魅力を感じたからです。また、東京への就職を強く希望しており、東京の雰囲気がどういうものか確かめるためでもありました。インターンシップを体験してみて、まわりの学生の意識の高さに圧倒されました。また、説明会に参加してくださった栄養士さんや管理栄養士さんは、病院・社員食堂・保育園などさまざまな現場を体験しており、お話の中で栄養の知識だけではなく、基本的な挨拶やマナー、コミュニケーションなどがとても大切だとおっしゃっていました。現場の職員の方々や利用者の方との関わりが大切な職業であると学びました。

就職活動にあたって後輩の皆さんへ伝えたいアドバイスは、常に「見られている」ということを意識する大切さです。また、笑顔で挨拶することを心がけ、やる気のある態度で臨むことです。

## 幼稚園・保育園等合同説明会開催

「地元の園について、もっと知ってほしい」という想いからスタートした本説明会も、今年で5回目を迎えた。これまでご協力して頂いた各関連施設の皆様には、改めて感謝を申し上げると共に、今後も継続して互いに開けた良い関係を築いていけたらと願う。

今年度は、これまで実施してきた中で最も参加園が多く、全部で41園の参加となった。むつや秋田方面からわざわざ駆けつけてくださる園も多数あった。実施後は「県外就職を希望していたが、県内就職に揺らいでいる」「青森に魅力を感じることができた」といった学生の声も聞かれ、地元就職に繋がるきっかけにもなった。次年度は1年生の参加も検討中であり、本説明が今後も地域と大学を繋ぐ良い時間になればと期待する。

## 高齢者へのおやつ提供

食物栄養学科では、昨年度より三思園でのおやつの提供を行っています。高齢者にとって食べやすいおやつのレシピを学生が考案し、試作を繰り返し、三思園の管理栄養士の先生の助言のもと提供しています。今年度のテーマは食べやすいお餅でした。噛む力や飲み込む力が弱くなった高齢者にとってお餅は食べにくい食材です。「口から食べる喜び」を感じることができるようにと食べやすくする工夫をし、**お餅入りの羊羹**やお粥を使った青森の郷土料理である**がっぱら餅**を提供しました。皆さん、「美味しい」と言いながらあっという間に召し上がっていました。自分たちが考えたレシピで実際に提供できたことは、学生にとっても非常に良い経験になったと思います。

## 専攻科新たな取り組み～介護ICT授業～

平成30年度、専攻科の新たな取り組みとして介護ICT授業を行いました。介護ICTとは、「情報通信技術により介護業務の効率化、分析、フィードバックを行うこと」です。介護ICTの現状、必要性と効果を講義したのち、最新の介護ICT活用の実例と体験を介護ソフト・介護システムの(株)富士データシステムと協力して実施しました。導入現場の実情、学生の興味・関心等を勘案して打ち合わせを重ね、前期、後期に分けて、介護ICT授業を行いました。内容としては、介護ICTの導入と効果、全国の先駆的実践、東北（青森）における実践例、タブレットを用いた介護記録と分析の実践等です。

過渡期の介護業界の中で、介護ICTは急速に進んでいます。学生にとっては、介護ICTを学んだ先にある、ICTを用いた介護福祉士としての働き方について考えるきっかけとなったのではないでしょうか。

## 先生の自分史

**幼児保育学科　大橋 誠 先生**

私は子どもの表現活動が好きである。子どもが表現活動を楽しんで進めるために、教師の研究グループで考えていたことがあるが、普段の生活の中で心が強く揺り動かされたことや発見したこと等を簡単なスケッチと文でノートに記録する指導をした。このノートで子どもが様々なものに興味を示し、題材を選ぶ上でヒントとする等、表現する内容の幅を広げようと考えた。

実際に一人ひとりの子が、自分がかかわった題材を見つけて生き生きと表現するようになったと思っている。

少ない時間であるが、このような子ども達と言葉を交わすことが私の大事な時間になった。現在対象は児童から学生に代わったが、表現を楽しんでもらいたいという思いは変わっていない。

## 研究室を訪ねて～清澤研究室～

清澤特研では清澤先生の指導と外崎先生のサポートのもと、実験を行なって食品の成分を調べて効果や影響を検討、アレルギーや食中毒などについて研究を行ってきました。食品を扱う実験を行うため、研究室にメンバー全員が揃う時は実験で使った食品(りんごジュース、ウインナー等)を味見することがあり、和気あいあいとした雰囲気でした。実験計画や提出物の進捗を報告したり、文献を読んでわかったことを共有したり、次回はどこまで進めるのかを自己申告することで自分のペースで無理なく研究を進めることが出来ました。また、実験を行う際は私たち学生が納得するまで時間を作ってくださったり、実験方法を指導してくださったり、実験を行って新しいことが分かり、可能性を見つけられることの楽しさや喜びを学ぶことが出来ました。

## AOMORI SIX×音れくサークル

８月24日、アウガ5階にて青森市内６大学による合同オープンキャンパス「情熱無限大AOMORI SIXフェスティバル」が開催されました。昨年度からスタートした本企画ですが、今年度は青森中央高校演劇部の公演も含まれており、会場は高校生や保護者の皆さんで一杯でした。

そんな中、本学幼児保育学科の発表として、「中短♪音れくサークル」の三人が音楽レクリエーションを披露し、やや緊張気味の会場の雰囲気を一気に明るく楽しいものにしていました。保育者の卵らしい素敵なエプロン姿で一生懸命発表する先輩達の姿にあこがれを抱いてくれた高校生もいたのではないでしょうか。お疲れさまでした！

## 卒業生も活躍しています

**食物栄養学科46期生　川上 詩織 さん**
**ジー・エイチ・ホスピタリティーフードサービス東日本青森新都市病院 勤務**

私は、現在栄養士２年目です。勤務する病院では、毎食約120食の食事を提供していて、私は主に配膳を担当しています。急性期病院なので、日々の患者数も大きく異なりますし、食種や細かい指示がとても多く食札が分かりづらいです。しかし、誤配膳のないよう日々気を抜かず業務に励んでいます。

患者様は食事の時間をとても楽しみにしています。そのためにも、味はもちろんですが切り方や盛付け方など工夫をしています。患者様からメッセージをいただくことがあり、「美味しかった」「完食できました」「いつもありがとう」などの言葉をいただけることがとても嬉しくやりがいを感じています。

現場に立ってみないと分からないことや気づきがたくさんありました。これからは、いろいろな現場を経験して安全でより良い食事が提供できるように頑張ります。

# 附属第一・第二・第三幼稚園/中央文化・浦町保育園

## 教　育　方　針

ー健康で明るく心豊かな子どもー

●友達と仲良く遊ぶ。　●よく見、よく聞き、よく考える。
●思ったことははっきり話す。　●自分のことは自分でやる。

### 認定こども園附属第一幼稚園

「緑の幼年団　募金よろしくお願いします！」
たくさんの方々に募金してもらいました。

かけっこ、玉入れ、お遊戯、綱引きなど、力いっぱい頑張りました！

自分で選んだお花！毎日お水をあげて、大切に育てています。

### 認定こども園附属第二幼稚園

初めてのビオトープ★
フワフワのわたげさん、どこまで行くのかな？

好きな時間はみんなとあそぶ時間、おやつの時間…とけい誕生会楽しかったね

楽しい水遊び保育。
初めてのプールとても楽しかったね！

### 認定こども園附属第三幼稚園

初めての英会話保育。何だか楽しいぞ。

春の遠足。異年齢グループで散歩したよ。

水族館見学。見て！見て！つかめるよ。

## 浦町保育園・中央文化保育園

三思園慰問。「おはよう～」「こんにちは～」
元気にあいさつのうたをうたったよ！

いもうえ。みんなでおまじない。おおきくな～れ！！

さくら組5歳児が県立図書館を見学。図書館内のマナーを守りながらたくさんの絵本を見て来ました。





# 先生達活躍しています　第19回

## 「子ども達の健やかな成長を願って」

認定こども園附属第一幼稚園

**三上 舞**先生

私は、附属第一幼稚園で栄養教諭として十年間勤務しています。

仕事をし始めた頃は、仕事を覚えること、子ども達との関わり方など分からない事や勉強しなければいけない事ばかりでしたが、保育士の先生方や子ども達からたくさんの事を学び、毎日私自身の勉強となっています。

給食時間、作った給食をお部屋で一緒に食べることで、子ども達の笑顔や「今日の給食おいしい。」と実際に言ってもらえる事が嬉しくとてもやりがいを感じることができています。

これからも、子ども達に笑顔と楽しみを与えられる、おいしく安全で栄養バランスのとれた給食づくりを心掛けて頑張りたいと思います。

## 「先生達活躍しています」

幼保連携型認定こども園中央文化保育園

**京野 七瀬**先生

栄養士として勤務して３年目になりました。献立作成、発注、調理、食育指導が主な仕事です。その中でも今年度は、特に食育指導に力を入れていきたいと思っています。

中央文化保育園では月に一度、朝の集会内で食育のお話をしています。その他、園で収穫した野菜を給食に使用する、２月の豆まき誕生会では恵方巻を自分で作る等、五感で食を感じられる食育指導をするように心がけています。

今後は子どもたちのクラスで一緒に給食を食べたり、今まで以上に積極的に会話をしたりし、子どもたちの様子や声をもっと活かした献立作成、食育指導をしていきたいと思います。

## 「たくさんの「できた！」に出会える毎日」

幼保連携型認定こども園浦町保育園

**奈良 香里**先生

幼い頃からの夢だった保育園の先生となり、浦町保育園に勤務して3年目になりました。昨年度は1歳児クラスで、日々成長する子ども達と毎日楽しく過ごしました。

春、進級や入園したばかりの頃はお野菜が苦手だった子が、「食べちゃった！」と空のお皿を見せてくれたり、パンツやズボンが履けなかった子が、できるようになったりと、たくさんの「できた！」に出会える保育園での生活にいつもわくわくしています。

また、私自身様々なことに挑戦してもらっています。難しいと思うことや悩むこともありますが、いつも話を聞いてくれて支えてくれる先輩方に、背中を押されながら頑張っています。そして、その仕事をやり終えたときに、達成感と大きな充実感を感じています。私も子ども達と共にたくさんの経験を経て、成長していきたいと思っています。

## 読み聞かせたい一冊の絵本

**認定こども園附属第二幼稚園　小野 琴夏 先生**

**『コんガらガっち　どっちにすすむ?の本』**

ユーフラテス作　（小学館，2009）

この絵本は、指で道をたどって読み進めるしくみの絵本です。主人公は、“いるか”と“もぐら”がこんがらがってできた生物『いぐら』。道は二つに分かれたり、戻ったり、ページの裏側に移ったり…ゆかいなゴールに向かって、いろんな所に進みます。

子ども達と進む道を決めながら、絵本を読み進めていくので、みんなわくわく、どきどき楽しみながら見ています。読むたびにストーリーが変わるので、何度でもくり返し読め、子ども達から「もう一回見たい！」と大人気のオススメの絵本です。

# 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

## 中央文化×Right-onリミテッドショップ「'eha」

青森中央文化専門学校トータルファッション科ファッション販売専攻の学生が、リミテッドショップ「'eha」をプロデュースし、期間限定で営業した。産学官が連携した新しいビジネスプランを創出するこの取り組みは、青森市の経済活性化、商業・商店街振興を目的とするあおもりフィールドスタディ支援事業と、カジュアルウェア販売の専門店を運営する株式会社ライトオンにご協力いただき実現した。

学生達は、企画、運営、広報、販売など、ショッププロデュースのノウハウ全てを実践的に学ぶことができた。

## 中央経理公開講座「いそがないで歩こう」

11月22日、青森商工会議所AOMORI STARTUP CENTERにおいて、公開講座「いそがないで歩こう－長期投資という資産形成－」を開催した。当日は40名近くの方々にご参加いただき、投資への関心の高さが伺えた。石田校長による挨拶、講師であるセゾン投信株式会社 代表取締役社長 中野晴啓氏の投資に関するお話しに、参加された方々は真剣な様子で聞き入っていた。

講座では、いま話題のつみたてNISAについても触れられており、今回の講座がお金に対する考え方等を見直すきっかけになったのではないだろうか。

## 平成30年度　専門学校研修旅行

### 青森中央文化専門学校

青森中央文化専門学校では、10月14日～16日の日程で、研修旅行を実施した。１日目はRight-on HARAJUKU TOKYOの店舗・プレスルーム・バックヤードの見学、２日目はAmazon Fashion Week TokyoのDRESSEDUNDRESSED SPRING SUMMER 2019 COLLECTIONを見学。通常は関係者しか立ち入ることのできない各研修先に、参加した学生は目を輝かせた。３日目、１年生はGARDE COLLECTIVEのアトリエ・店舗の見学、２年生は日暮里繊維街で今後使用する服地や副資材を購入。また、同じ文化服装学院の連鎖校である川口文化服装専門学校を訪問し、青森の伝統工芸である『津軽こぎん刺し』の共同制作を通じて交流を深めた。多くの経験を得て、将来へ向け視野を広げられる研修旅行となった。

### 青森中央経理専門学校

青森中央経理専門学校では、職業教育機関の研修旅行として、「業界」を体感し見聞を広め、規律ある団体行動をし、公衆道徳やビジネス社会に触れることを目的に、隔年で研修旅行を実施している。昨年度は１・２年生全員が、10月１日～３日の２泊３日の日程で、東京都内を訪れた。

各自所属するコースに関連した職場見学では、経理事務コースがセゾン投信株式会社と日本銀行・貨幣博物館、医療事務コースがくすりミュージアムと東京大学医学研究所、観光コンシェルジュコースがはとバスと東京国際空港ANA機体工場を訪問し、業界を体感した。また、各コース共通で見学した東京証券取引所では株式投資を体験し、証券取引について学びを深めていた。

## 経理発信情報 Vol.22 学生パソコン講座

青森中央経理専門学校では、平成30年11月３日、学術交流会館３階935教室にて学生主催のパソコン教室を開催した。一般の方々を対象とした無料で行うパソコン教室は、学生が地域住民の方々と触れ合いながら、地域貢献と社会参加の大切さを考え、各自が役割を持つことで、組織の中で自ら行動することを目指して毎年開催している。インストラクター役の学生は、参加者が作成したいデザインの年賀状を、パソコン操作とデザイン等のアドバイスをしながら、約２時間で作成。参加者の方々からは、「毎年参加している。年々教え方が分りやすく、楽しく参加できた。」と感想をいただき、学生達は自分の成長に繋がる時間を過ごした。

## おススメ図書vol.20

青森中央経理専門学校　**塚本 大広 先生**

**『ふるさとは本日も晴天なり』（ハルキ文庫）**

横山 雄二著（角川春樹事務所，2018）

唐突ではあるが、自分はラジオをよく聴いている。車の運転中や家事の時など、何かをしながら聴いていることが多い。全国のラジオ番組を聴くことができるアプリによって、自分が聴いているラジオ番組は広がりつつある。そんな中で、本書に出会えた。

著者は広島県にある放送局のアナウンサーであり、ラジオの番組もやっている。そのラジオ番組のリスナーである自分は、その番組内で本書について内容等を話しているのを聴き、読んでみたいと書店を見て回っていた。自分が実際に本書を手にすることが出来たのはそれから数カ月後であった。

本書は著者の経験等を基にした自伝的小説である。読んでいくうちに凄い経験をしてきたんだなと感じたのと共に故郷の両親についての描写では時折、目頭を熱くしながら読み進め、読み終わった後はまた時間を見つけて読み返そうと思った。

自分も故郷を離れて仕事をさせてもらっているが、本書を読んで故郷があることのありがたさ、両親がいることのありがたさを改めて感じさせてくれる一冊であった。

## ファッション通信 vol.20

### ～Bunka Fashion Live 2018～

12月15日、アウガ５階AV多機能ホールにてBunka Fashion Live 2018「Toxic」を開催した。企画・デザイン・制作・構成・演出等の全てを学生が手がけ、全８シーン・54点のオリジナル衣装を発表した。学びの集大成として、衣装はもちろん、ヘアメイクやウォーキングに至るまで、日頃学んでいるトータルファッションとしての知識や技術も披露した。ゲストとして参加したモデルの皆さんや青森県ビューティ＆メディカル専門学校の学生さんなど、たくさんの方にご協力・ご支援をいただき、ファッションショーは大盛況に終えた。

## 卒業生ピックアップ No.31

**青森中央文化専門学校　平成28年度卒業**
**ストライプインターナショナル AMERICAN HOLIC**
**イオンモール下田店 勤務　田代 みさと**さん

私は青森中央文化専門学校を卒業後、ライフスタイルアドバイザーとして、アパレル商品の接客販売をしています。適切な商品説明やお客様が求めているコーディネート提案をするため、学校で身につけた基礎知識やロールプレイング、店舗実習での経験を活かし、日々接客技術を磨いています。配属されるブランドによって、商品の特徴も異なるので、それぞれのコンセプトに合わせた提案ができるよう努力しています。まだまだ未熟な部分もありますが、私を頼りにしてくださるお客様もいるので、仕事を楽しみながら、更なる向上を目指しています。

# 新教職員紹介

① 職位・氏名
② 出身
③ 担当
④ 抱負

## 青森中央学院大学

### 経営法学部

①准教授　山本　俊（やまもと しゅん）
②北海道
③金融論、マクロ経済学、地場産業論など
④学生が人生をかけて挑戦したいと思える仕事に出会い、そこで活躍できるよう、全力で学生支援に努めます

①専任講師　福田　隆巳（ふくだ るい）
②静岡県
③経済学系の科目
④不器用なのでご迷惑をおかけすることと存じますが、戦力になれるよう、拙者なりに一生懸命がんばります。

①助教　志喜屋　カロリーナ
（しきや かろりーな）
②Buenos Aires
③学術日本語Ⅰ、日本語Ⅲ
④多文化共生社会の実現に少しでも貢献出来たらと思います。よろしくお願い致します。

### 看護学部

①教授　坂井　哲博（さかい てつひろ）
②富山県
③基礎看護学
④発展途上の教員です。感謝し、喜びつつ、畏れつつ学生と共に成長していきたいと思います。

①准教授　川添　郁夫（かわぞえ いくお）
②青森県
③精神看護学
④近年、心の問題がクローズアップされています。心の問題をもつ人とその家族をどのように支えていけるかを一緒に考えていきましょう。

①専任講師　木村　峰子（きむら みねこ）
②青森県
③成人看護学
④数十年ぶりに青森県に戻って参りました。今後はこれまで培ってきた看護の経験と教育を通して、微力ながら青森県と未来ある学生・学園のために力を尽くす所存です。

### 別科助産専攻

①専任講師　渡邊　紘子（わたなべ ひろこ）
②秋田県
③助産学
④ここ青森で助産師養成に携わることができ光栄に思います。人間性豊かな助産師を育成できるよう尽力致します。

## 青森中央短期大学

### 幼児保育学科

①准教授　兼平 友子（かねひら ともこ）
②秋田県
③幼児保育学科
④みなさんに保育の魅力・面白さを伝えていけたらと思います。よろしくお願い 致します。

①助教　具志堅 裕介（ぐしけん ゆうすけ）
②沖縄県
③子供の生活と造形遊びⅠ 等
④つくることの喜びやその楽しさを伝えられるよう、これまでの経験を活かして頑張ります。

### 専攻科福祉専攻

①専任講師　齋藤 雅美（さいとう まさみ）
②兵庫県
③介護
④これまでの経験を生かしながら、介護の楽しさを伝えていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 青森中央文化専門学校

①渡辺　琴美（わたなべ　ことみ）
②青森県
③ファッション販売専攻
④今までの経験を活かし、より実践的な授業で共に成長していけるよう努力したいと思っております。宜しくお願い致します。





## 幼保連携型認定こども園中央文化保育園・浦町保育園

### 幼保連携型認定こども園中央文化保育園

①工藤　なな（くどう なな ）
②青森県
③１歳児ひよこ組
④子どもたちと毎日楽しく過ごし、共に成長していきたいと思っています。

### 幼保連携型認定こども園浦町保育園

①外﨑　聖子（とのさき しょうこ）
②青森県
③１歳児つくし組
④子どもたちの心に寄り添い、毎日楽しく笑顔の絶えない保育を心がけていきたいと思います。

①田中　美宇（たなか みう）
②青森県
③１歳児つくし組
④ 早く仕事を覚え、毎日笑顔であふれるような保育をしていきたいと思います。

①鶴田　瑞希（つるた みずき）
②青森県
③２歳児たんぽぽ1組
④子ども達が心から楽しめるような活動ができるよう、これまでの学びや経験を活かして精一杯頑張ります。

①宮田　里奈（みやた りな）
②青森県
③調理員
④子ども達が毎日安心して給食を食べられるように、おいしいごはんを作っていきたいと思います。

## 認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園

### 認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園

①井上　由貴（いのうえ　ゆき）
②青森県
③満３歳児　さくら組
④子どもたちの気持ちに寄り添い、笑顔が溢れるような保育を目指し一生懸命頑張ります。

### 認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園

①斉藤　美沙希（さいとう　みさき）
②青森県
③０歳児 ひよこぐみ
④こどもたちと一緒にいっぱい遊んで、毎日たくさんの笑顔と笑い声の中で過ごしていきたいと思います。

①金枝　あゆ（かねえだ あゆ）
②青森県
③１歳児 うぐいす組
④子どもたちや保護者の方に寄り添いながら、毎日笑顔を絶やさず楽しく元気に頑張っていきたいです。

### 認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園

①小野　琴夏（おの　こなつ）
②青森県
③２歳児いちご組
④今までの保育経験を活かしながら、子ども達と元気いっぱい毎日楽しく過ごしたいと思います。

①工藤　真里衣（くどう　まりえ）
②青森県
③４歳児もも組
④子ども達とたくさん触れ合い、信頼関係を築きながら楽しく一緒に過ごしていきたいと思います。

①桑田　桂輔（くわた けいすけ）
②青森県
③車輌
④安全運転に努め、安全安心な幼稚園のため頑張ります。よろしくお願いします。

# 新教職員紹介

① 職位・氏名
② 出身
③ 担当
④ 抱負

## 事務局

①木田　孝夫（きだ たかお）
②青森県
③学習支援センター
④これまでの経験を生かして、本学発展のために力を尽くしたいと思います。よろしくお願いします。

①石山　直敬（いしやま なおたか）
②青森県
③教育開発・情報課
④学園業務という初めての環境ですが、日々邁進してまいります。よろしくお願いいたします。

①田中　繁徳（たなか　しげのり）
②青森県
③キャリア支援センター
④これまで大学職員の経験はありませんが、学生が気軽に利用できるキャリア支援センターを目指し、一人でも多くの学生が希望する先に就職できる手助けをしたいと思います。

①大塚　幸子（おおつか さちこ）
②青森県
③国際交流課
④目指すは楽しく、しかし安定感を持って仕事をすること。好きな言葉は“Impossible? I'm possible”。よろしくお願いします。

①須郷　愛（すごう あい）
②青森県
③総務課
④今はまだ学ぶことばかりですが、業務を通し本校に携わる皆様のお力となれるよう頑張ります。よろしくお願い致します。

①風晴 彩雅（かぜはれ さいが）
②青森県
③国際交流課
④地元青森で働けることになりとても嬉しく感じております。皆様とともに学園を盛り上げていけるよう励みたいと思います。

①石川　新（いしかわ あらた）
②青森県
③学務課
④大学職員、ボウリング部監督として本学に貢献できるよう努力していきたいです。どうぞよろしくお願いします。

①NGUYEN THI MINH NHAN
（グェン ティン ミン ニャン）
②ベトナム
③国際交流課
④ACGUの留学のおかげで、自分の小さな箱から脱出できました。本学に貢献できるように力を尽くしたいと思います。

①佐藤　祐介（さとう　ゆうすけ）
②青森県
③キャリア支援課
④すべての学生が希望する職に就くことを目標に、一生懸命取り組んでいきたいと思います。

①大塚　倫世（おおつか　みちよ）
②青森県
③国際交流課
④皆さんの助けになれるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。よろしくお願い致します。

①成田　晴子（なりた はるこ）
②青森県
③学習支援課
④皆さんとの連携を大切にしながら、学生の皆さんが安心、安全にキャンパスライフをエンジョイできるようサポートできたら、と思っています。





# 学園共通

## 選書ツアー2019開催！

図書館情報センターでは2015年より、学生自身が書店で本を選定し、紹介POPとともに展示する「選書ツアー」を行っている。これは、参加型イベントを通して新たな書籍との出会いの楽しさを得るだけではなく、学生目線で購入した書籍を所蔵・紹介することで、学生利用者の増加も狙いとしている。

今年度は６名が参加し７月に実施した。学生達は店頭に並ぶ書籍数に圧倒されながらも真剣に図書を選び、60冊を超える書籍が集まった。大学到着後は、多くの利用者に手に取ってもらえるよう、自らが選定した書籍に紹介POPを作成し、学生目線で選定された新たな蔵書の誕生に華を添えた。

学生選書による書籍は、現在特設コーナーに展示されている。大学図書館ではなかなか選ばれることの少ない、“学生目線”による書籍の数々を是非ご覧いただきたい。

## 中央文化特別公開授業「meets the Fashion」

８月１日、青森中央文化専門学校では特別公開授業「meets the Fashion」を開催致しました。講師には、ファッションブランドDRESSEDUNDRESSEDのデザイナー・北澤武志氏を招聘し、ワークショップ形式で展開。本校の学生がパターンメーキングの授業で制作したブラウスとジャケットのトワルに、それぞれ思い思いの文字やデザインをアクリル塗料でペイントを施しました。

完成した作品を前に、北澤氏から「デザイナー１人の力だけでなく、たくさんの人と一つの作品を創ること。皆でクリエーションすることが大切。」とメッセージをいただきました。

## 公開講座案内

### 青森中央学院大学

| 日　程 | | 内　容 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 10月19日(土) | 13:00～16:30 | 教育フォーラム<br>「人口減少が続く地域社会における教育の在り方を考える」 | 島根県教育庁教育指導課企画幹<br>寺本 直史 氏 他 |
| 10月27日(日) | 13:00～15:10 | 特別公開講座「歴史小説の書き方ー『十三の海鳴り』を中心にー」 | 作家　安部 龍太郎 氏 他 |
| 11月21日(木) | 14:30～16:00 | 公開講座「国内外の金融経済情勢と青森県経済の現状」 | 日本銀行青森支店長　勝浦 大達 氏 |

**●まちなかキャンパスミニ公開講座2019「生き粋健康寿命で人生を楽しむ」**　会場:青森中央学院大学サテライトキャンパスFRIENDLY WINDOW

| 日　程 | | 内　容 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 10月26日(土) | 10:00～11:30 | 糖尿病を防いでハッピー寿命 | 看護学部講師　三上 ふみ子 |
| 11月16日(土) | | 縄文人に学ぶ健康生活のコツ | 看護学部講師　藤澤 珠織 |

**●サイクル・ツーリズムセミナー**　会場:東奥日報新町ビル３階

| 日　程 | | 内　容 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 11月27日(水) | 14:00～16:00 | 住民参画型で行うしまなみ海道を活かした自転車まちづくり | NPO法人シクロツーリズムしまなみ<br>宇都宮 一成 氏 |

### 青森中央短期大学

| 日　程 | | 内　容 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 10月11日(金)<br>10月18日(金) | 18:30～20:00 | 公開講座「日常を楽しむデッサン教室」 | 幼児保育学科助教　具志堅 裕介 |
| 10月19日(土) | 10:00～11:30 | 高齢者対象講座「シニアのための健康づくり」 | 幼児保育学科准教授　鈴木 寛康 |
| 11月　2日(土) | 13:30～15:00 | 福祉セミナー「介護ケアから生まれる『笑い』と『生きがい』」 | 介護エンターティナー　石田 竜生 氏 |
| 11月23日(土) | 12:40～16:00 | 食育セミナー「自立した地域食育活動の展開を目指して」 | 宮城学院女子大学教授　平本 福子 氏 他 |

**●まちなかキャンパス講座**　会場:新町キューブ１階グランパレ

| 日　程 | | 内　容 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 11月　1日(金) | 18:30～20:00 | ライブで楽しむ中短JAZZ講座 | 幼児保育学科准教授　木村 貴子 他 |

## 「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、２月発行予定の102号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■102号応募締め切り：12月20日
■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp
※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。
※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生が撮影した未発表作品に限ります。
※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。
お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第101号
発行日：2019. 10. 19
発　行：学校法人　青森田中学園
〒030-0132　青森市横内字神田12
ＴＥＬ：017-728-0131
ＦＡＸ：017-738-8333
http://www.aomoricgu.ac.jp
http://www.chutan.ac.jp

「こぶしの花」編集委員

編集長　加藤　澄
石岡　桂子　　丸山　夏弥
外崎　秀香　　木村　貴子
渡辺　琴美　　坪谷　輝子
中田　尋美　　岩葉　悦子
高橋　晴美　　町田美智子